

- 2 「SDGs フィールドワーク」
- 3 SDGs の基本的な考え方などを学ぶ「市民向けワークショップ」



# SDGs 推進に向けた取り組み

新たなつながりの創出で、  
「持続可能な人と企業に選ばれるまち」づくり

**取り組みの概要**  
市内外のステークホルダー同士が新たにつながる機会を創出する。このつながりによって生じる相乗効果で、課題解決に資するSDGsの取り組みを進め、企業と市民が居続けたい・八代市へ移りたいと思える「持続可能な人と企業に選ばれるまち」の実現を目指す。

**《経済》**  
産業・雇用が安定した「働きたいまち」

**《社会》**  
地域資源を活かし、多様な交流のできる「住みたいまち」  
安心して子どもを生み育てることができる「育みたいまち」

**《環境》**  
地球環境への負荷が少ない「低炭素なまち」

**《Move Forward! SDGsフードマッチングプロジェクト》**  
地域課題の解決に向けて、デジタル技術も活用しながら市内外の人・企業・団体・地域が、八代の豊富な農林水産物等を活用した「食でつながる」機会を創出し、八代市の経済・社会・環境が持続的に発展する仕組み(体制)を構築する取り組みとして「Move Forward! SDGsフードマッチングプロジェクト」を展開している。(次頁「三側面をつなぐ総合的取組」参照)

**《ビジネスマッチングによる高付加価値化促進事業》**  
特産品生産者や地域企業等が、生産物の特徴や活用の希望等に関する情報交換の場を設ける。そして、生産技術や加工技術及び企画・販売力の相互の強みを活かした特産品を使った新商品の開発を促進することにより、

八代地域の特産品の高付加価値化を支援する。  
**《もったいない食品利活用推進事業》**  
八代市で生産されたものの出荷されない農林水産物や消費期限・賞味期限間近な食品等の有効活用を目指し、農林水産事業者等と子ども食堂等をマッチングする仕組みづくりを行い、食の好循環を創出するとともに環境負担を低減する。

**《貨客混載による買い物支援事業》**  
八代市の交通空白地域において、地域間を移動する車両の効率的な運用を図るとともに、乗客が移動先で用事を済ませている時間に依頼のあった買い物等を行い、帰りに乗客と、買い物した荷物をまとめて同時に運ぶことで「運送マッチングサービス」を実現させ、過疎地域などの買い物弱者を支援する。



- 4 規格外トマトを活用した商品。
- 5 子ども食堂に提供される賞味期限間近の食品。

# 地域特性と課題

# 09 八代市



西日本で唯一の全国花火競技大会として開催される「やつしろ全国花火競技大会」

人口(令和2年国勢調査): 12万3067人  
面積(参考): 681.36平方キロメートル



九州のほぼ中央に位置し、面積の約70%が山間地となっている。東は九州山地、西は八代海、八代平野があり、熊本県第二の人口を擁する自然豊かな都市である。

交通アクセス面では、九州新幹線、九州縦貫自動車道、南九州西回り自動車道、国道3号が縦断し、さらに海の玄関口である八代港を有していることから、南九州に向けた交通の要衝となっている。市内には、日本三急流

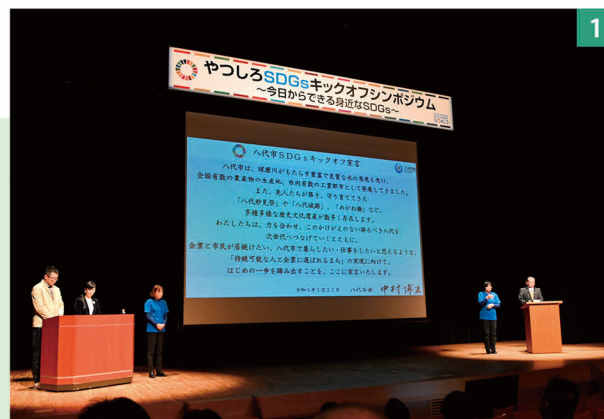
の一つである球磨川が流れており、その豊富で良質な水の恵みを活かして、製紙パルプ、精密機械、化学、食品加工などの工業や生産量日本一の冬春トマト、イグサ(畳の材料)のほか、ばんぺいゆ、シヨウガが特産の農業を基幹産業とする、田園工業都市である。

また、ユネスコ無形文化遺産である八代妙見祭や全国の有名花火師が技を競うやつしろ全国花火競技大会など、魅力ある祭りやイベントが開催され、

全国から多くの観光客が訪れている。総人口は、2020年には、40年前の1980年と比べ約2割減少している。特に、年少人口(0〜14歳)は、40年間で半減している。一方で、老年人口(65歳以上)の割合は、40年間で約3倍に増加しており、少子高齢化が進んでいる。

人口動態では、若者世代の転出が見られ、進学や就職を機に八代市を離れる若者が、社会動態に

おける人口減少の最大要因となっている。人口減少や少子高齢化が続く中、地域産業における担い手不足の解消や雇用の創出、過疎化で生じる様々な問題への対応などが課題となっている。また、若者が定着でき、Uターンでできるような雇用環境の創出や移住定住の促進、子育て環境の充実などへの対策に加え、国の「カーボンニュートラル」に伴うゼロカーボンシティの実現を目指している。



- 1 「やつしろ SDGs キックオフシンポジウム」



## 八代市の未来都市に向けての取り組み

取り組みにあたり苦労したことや乗り越えたこと  
SDGsの推進にあたっては、まずは担当課である企画政策課の職員自身が率先してSDGsの理念普及に向けて理解を深めることとしました。

企画政策課では、限られた職員数の中で、ほかの業務も抱えながら普及啓発やモデル事業を実践していく必要があり、マンパワーの不足が大きな課題でした。

現在もマンパワー不足が解消しているわけではありませんが、SDGs推進の実働班である「推進員」を各課に配置することによって、ようやく庁内の関係者一丸となって取り組める体制が整ったと思います。

また、市としてSDGsを推進していくために、具体的な業務とSDGsをどのように結びつけるかが理解できていないと感じたことから、市職員に対して研修の場を設けSDGsに対する理解を深めました。

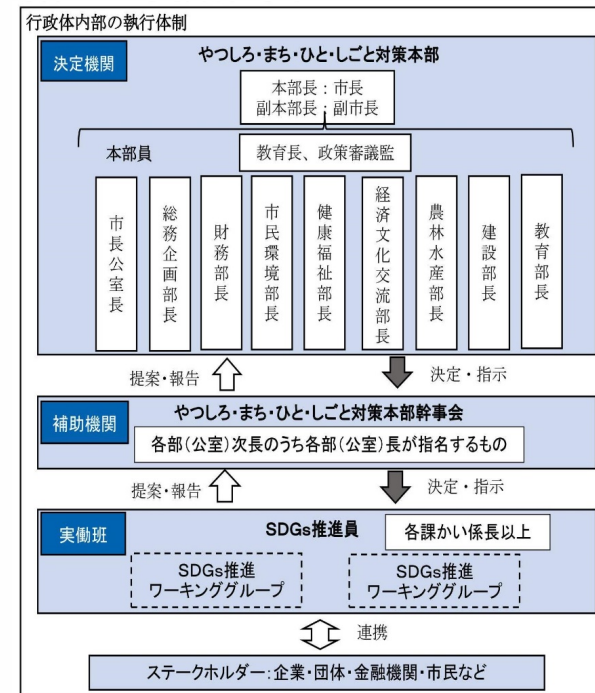
今後の展開  
SDGsの理念や未来都市としての取り組みについては、一定の周知ができましたので、次のステップとして、身近なことから実際にSDGsに取り組んでいただけるよう、行動変容を促すような周知啓発を行っていきます。

SDGsの達成に向けて取り組む企業は、就職先を選択する若者に対して良いイメージを与えています。働きたい企業を選ぶ際も、SDGsに対して積極的かどうか一つの基準になると考えています。

市では今後、SDGsに取り組む企業等とその取り組みを宣言してもらおう制度を創設します。宣言を行うことで、取り組む企業等の見える化を図り、企業価値や認知度の向上につなげるとともに、宣言企業間の交流の場を設けるなど、新たなつながりの創出を進めます。

市役所外の様々なステークホルダーとの連携を進めるにあたっては、企業や団体、個人によってSDGsに対する理解度に大きく差があったため、推進が困難でした。

八代市では、未来都市に選定されたことを契機として、SDGsの達成に向けた取り組みのスタートを広く周知することを目的に2023年1月21日に「やつしろSDGsキックオフシンポジウム」を開催しました。



ここでは、市内企業や高校生による取り組み発表を行ってもらい、約200名の市民の皆さんに参加いただくことができました。

このシンポジウムや広報誌による普及啓発により、市民や企業の皆さんにSDGsについて知り、理解を深めていただくきっかけづくりができたことで、一定の進捗が見られたと考えています。

また、生活の中にある身近なSDGsに気づき、学ぶことができるガイドブックを作成し、子どもたちをターゲットとした普及啓発にも力を入れています。

「ビジネスマッチングによる高付加価値促進事業」については、現在でも複数の新商品が開発されています。引き続き商品開発を進めるとともに、SDGsに貢献する商品には認識を高める仕掛けを考えていきます。

「もったいない食材活用推進事業」では、市内物産館から売れなかつた野菜等を子ども食堂に提供する取り組みを開始しました。今後は、本格実施に向けた体制づくりを進めます。また、事業拡大に向けて新たな食品提供者・活用先の掘り起こしを行います。

「貨客混載による買い物支援事業」では、五家荘地域で開始された自家用有償旅客運送を活用し、「運送マッチングサービス」による買い物支援の準備を進めています。

三側面をつなぐ総合的取組  
人・企業・地域をつなぐSDGsフードマッチング事業

SDGs推進のための宣言制度

- ◆SDGsに取り組む市民等の裾野を拡大
- ◆宣言企業・団体等の取り組みを周知
- ◆多様なステークホルダー間の連携を促進

食による新ビジネス創出  
＜ビジネスマッチングによる高付加価値促進事業＞  
◆八代市の特産品生産者、地域企業の加工技術及び企画・販売力の相互の強みを活かした、特産品を使った新商品開発を促進

食による環境保全  
＜もったいない食品活用推進事業＞  
◆出荷されていない農林水産物や消費期限近くな食品を有効活用したデジタルマッチングによる食の好循環を創出し、環境負荷を低減

食による地域社会の再生  
＜貨客混載による買い物支援事業＞  
◆人とモノを同時に公共交通で運んだりデジタル技術の活用による過疎地域などの買い物弱者を支援

経済・環境・社会の自律的好循環

### 「Move forward! SDGsフードマッチングプロジェクト」

2 ユネスコ無形文化遺産にも登録されている八代妙見祭。

1 市内を流れる球磨川。この川の恩恵を受け発展してきた。